

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 6 年 2 月 28 日(2024.2.28)

【公開番号】特開 2022-15309(P2022-15309A)

【公開日】令和 4 年 1 月 21 日(2022.1.21)

【年通号数】公開公報(特許)2022-011

【出願番号】特願 2020-118042(P2020-118042)

【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 5/04 6 5 1

【手続補正書】

【提出日】令和 6 年 2 月 19 日(2024.2.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

始動条件の成立に基づいて、当りに関する抽選情報を取得し、前記抽選情報に基づいて抽選を実行する抽選手段と、

開始条件の成立に基づいて図柄変動を実行する図柄変動実行手段と、

前記抽選手段による抽選の結果に基づいて、複数の演出の中から実行する演出を決定し、決定された演出を実行する演出実行手段と、

前記演出実行手段によって実行される演出を表示可能な演出表示手段と、

前記始動条件の成立は満たされたものの前記開始条件の成立が満たされなかった場合には、所定数を上限として前記抽選情報を記憶する保留手段と、

30

前記保留手段が記憶した前記抽選情報及び実行中の変動に対応する抽選情報それぞれに対応する保留表示を、前記演出表示手段に表示する保留表示手段と、を備え、

前記演出表示手段に表示可能とされた演出は、

前記演出表示手段に表示されている前記保留表示を認識不能にする特定演出と、

前記図柄変動の実行を開始してから第 1 時間が経過したときに前記特定演出が表示されて前記保留表示を認識不能にする第 1 演出と、

前記図柄変動の実行を開始してから前記第 1 時間が経過したとしても前記特定演出の表示によって前記保留表示が認識不能とされず、前記第 1 時間が経過した後の第 2 時間が経過したときに前記特定演出が表示されて前記保留表示を認識不能にする第 2 演出と、

前記図柄変動の実行を開始してから前記第 1 時間及び前記第 2 時間が経過したとしても前記特定演出の表示によって前記保留表示が認識不能とされず、前記第 2 時間が経過した後の第 3 時間が経過したときに前記特定演出が表示されて前記保留表示を認識不能にする第 3 演出と、を含み、

40

前記第 1 演出が実行される前記図柄変動において該図柄変動を開始してから前記第 1 時間が経過するよりも前の状況で特別演出の表示を可能とし、前記第 2 演出が実行される前記図柄変動においても該図柄変動を開始してから前記第 1 時間が経過するよりも前の状況で前記特別演出の表示を可能とし、

前記第 1 演出よりも前記第 2 演出の方が当りに対する期待が高く、

前記第 1 演出、第 2 演出及び前記第 3 演出のいずれとも異なる第 4 演出が前記演出表示手段に表示可能とされており、

50

前記第 4 演出は、前記保留表示のうち対象となる前記保留表示を認識不能にし、該認識不能にされた保留表示を再認識にさせるときには、該保留表示が認識不能にされる前に表示されていた態様よりも当りの期待度が高い態様で保留表示が表示され、当該当りの期待度が高い態様の保留表示が表示されることに基づいて特定音が出力され、

前記第 1 演出、第 2 演出及び前記第 3 演出によって認識不能にされた保留表示を再認識させるときには前記特定音が出力されず、

前記特定音が出力されることなく前記第 2 演出によって認識不能にされた保留表示を再認識させた保留表示について周期性表示とすることを可能とし、前記特定音が出力されることなく前記第 3 演出によって認識不能にされた保留表示を再認識させた保留表示についても周期性表示とすることを可能とし、

10

前記特定演出が表示されて前記保留表示を認識不能にする前記第 3 演出において、可動体を動作可能にしている

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

手段 1：始動条件の成立に基づいて、当りに関する抽選情報を取得し、前記抽選情報に基づいて抽選を実行する抽選手段と、

20

開始条件の成立に基づいて図柄変動を実行する図柄変動実行手段と、

前記抽選手段による抽選の結果に基づいて、複数の演出の中から実行する演出を決定し、決定された演出を実行する演出実行手段と、

前記演出実行手段によって実行される演出を表示可能な演出表示手段と、

前記始動条件の成立は満たされたものの前記開始条件の成立が満たされなかった場合には、所定数を上限として前記抽選情報を記憶する保留手段と、

前記保留手段が記憶した前記抽選情報及び実行中の変動に対応する抽選情報それぞれに対応する保留表示を、前記演出表示手段に表示する保留表示手段と、を備え、

前記演出表示手段に表示可能とされた演出は、

30

前記演出表示手段に表示されている前記保留表示を認識不能にする特定演出と、

前記図柄変動の実行を開始してから第 1 時間が経過したときに前記特定演出が表示されて前記保留表示を認識不能にする第 1 演出と、

前記図柄変動の実行を開始してから前記第 1 時間が経過したとしても前記特定演出の表示によって前記保留表示が認識不能とされず、前記第 1 時間が経過した後の第 2 時間が経過したときに前記特定演出が表示されて前記保留表示を認識不能にする第 2 演出と、

前記図柄変動の実行を開始してから前記第 1 時間及び前記第 2 時間が経過したとしても前記特定演出の表示によって前記保留表示が認識不能とされず、前記第 2 時間が経過した後の第 3 時間が経過したときに前記特定演出が表示されて前記保留表示を認識不能にする第 3 演出と、を含み、

40

前記第 1 演出が実行される前記図柄変動において該図柄変動を開始してから前記第 1 時間が経過するよりも前の状況で特別演出の表示を可能とし、前記第 2 演出が実行される前記図柄変動においても該図柄変動を開始してから前記第 1 時間が経過するよりも前の状況で前記特別演出の表示を可能とし、

前記第 1 演出よりも前記第 2 演出の方が当りに対する期待が高く、

前記第 1 演出、第 2 演出及び前記第 3 演出のいずれとも異なる第 4 演出が前記演出表示手段に表示可能とされており、

前記第 4 演出は、前記保留表示のうち対象となる前記保留表示を認識不能にし、該認識不能にされた保留表示を再認識にさせるときには、該保留表示が認識不能にされる前に表示されていた態様よりも当りの期待度が高い態様で保留表示が表示され、当該当りの期待

50

度が高い態様の保留表示が表示されることに基づいて特定音が出力され、

前記第 1 演出、第 2 演出及び前記第 3 演出によって認識不能にされた保留表示を再認識させるときには前記特定音が出力されず、

前記特定音が出力されることなく前記第 2 演出によって認識不能にされた保留表示を再認識させた保留表示について周期性表示とすることを可能とし、前記特定音が出力されることなく前記第 3 演出によって認識不能にされた保留表示を再認識させた保留表示についても周期性表示とすることを可能とし、

前記特定演出が表示されて前記保留表示を認識不能にする前記第 3 演出において、可動体を動作可能にしている

ことを特徴とする。

10

20

30

40

50